

アンサンブル・ノマド 第82回定期演奏会



2024
10/5 sat.

東京オペラシティ リサイタルホール
13:30開場 14:00開演

ダイバーシティ・多様性 Vol. 2

私もここにいるわ!

プログラム

- イネス・バダロ：不安定な地図 (2018) -日本初演
Inés Badalo: Cartografía Volátil
- ガブリエラ・オルティス：デニベ-ユカナナ (1999) -日本初演
Gabriela Ortiz: Denibée -Yucuñaana
- 渋谷由香：ファウンド・シェイプ (2023) -日本初演
Yuka Shibuya: Found Shape
- 小栗舞花：誰かさんの産声 (2021)
Maika Oguri: First Cry of a Stranger
- ヒルデガルト・フォン・ビンゲン (1098-1179) /
編曲：深澤 舞：おお、智慧の力よ
Hildegard von Bingen
(arr. Mai Fukazawa): O Virtus Sepientiae
- 山口恭子：溶解炉 (2024)
アンサンブル・ノマド委嘱作品 -世界初演
Yasuko Yamaguchi: Schmelzofen
- 武満 徹：鳥が道に降りてきた (1994)
Toru Takemitsu: A Bird Came Down the Walk

※曲目は変更になる場合がございます。

チケット

【前売】

一般 ¥4,000

大学生 ¥2,000

高校生以下 ¥1,000

【当日】

一般 ¥4,500

大学生 ¥2,500

高校生以下 ¥1,500

(就学前のお子様の同伴・ご来場はご遠慮下さい)

チケット取り扱い

東京オペラシティチケットセンター
Tel:03-5353-9999

アンサンブル・ノマド ウェブサイト
<http://www.ensemble-nomad.com/>

お問い合わせ

キーノート

Tel:0422-44-1165

keynote_music@fol.hi-ho.ne.jp

出演者

Ensemble NOMAD

佐藤紀雄 (cond) 木ノ脇道元 (fl) 菊地秀夫 (cl) 野口千代光・花田和加子 (vn)
甲斐史子 (va) 菊地知也 (vc) 佐藤洋嗣 (cb) 中川賢一 (pf) 宮本典子 (perc)

Guests

林 憲秀 (ob) 小栗舞花 (perc)

主催／一般社団法人 アンサンブル・ノマド

助成／公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

芸術文化振興基金 NOMURA 野村財団

公益財団法人 朝日新聞文化財団

Kunststiftung
NRW

Ministerium für
Kultur und Wissenschaft
des Landes Nordrhein-Westfalen



アンサンブル・ノマド 第82回定期演奏会



ダイバーシティ・多様性 Vol.2 女性作曲家を特集する
私もここにいるわ! プログラムをつくったが、最後に武満 徹が偏愛してやまなかった女性詩人エミリー・ディキンソンの自然と愛を謳った詩から発想を得て作曲されたビオラとピアノのための曲を演奏する。

このプログラムでは、傑出した才能と知性を持ちながら、社会のなかで自分を消して生きることを宿命づけられた多くの天才的女性が心の中で発したであろう「私もここにいるわ!」の叫びに寄り添った。

「私もここにいるわ!」、この言葉は、類まれな文才に恵まれたカーライルの妻ジェーン・ウェルシュ・カーライルが唯一手にする事ができた表現手段であった手紙のなかにそっと置かれていた。

佐藤 紀雄

パウロ:女性たちは教会においては黙りなさい。彼女たちは語ることを許されていません。(新約聖書:コリントの信者への手紙)

「しきりに迫害されている詩作の能力というものに注目してみると、—(中略)— 私はこの能力が多くの人から咎められ非難されるのを見るにつけ、これがもたらしうる害にはどんなものがあるのか、意を尽くして探してみましたが、何ひとつ見つけれませんでした。」

ソル・フアナ
(『知への賛歌 修道女フアナの手紙』 且 敬介訳/光文社文庫)

これは世界にあてたわたしの手紙です
わたしに一度も手紙をくれたことのない世界への…
やさしい威厳をもって
自然が語った簡素な便りです…

エミリー・ディキンソン(亀井俊介編/岩波文庫)

Ensemble NOMAD

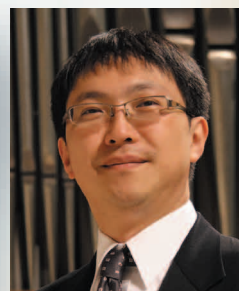
1997年、ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった、無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されてきた。2002年度に行った第15回定期演奏会「ケージとメシアンの間で交わす自然と宇宙に関する往復書簡」は大きな反響をよび、サントリー音楽財団「第2回佐治敬三賞」を、2014年度に行った第52回定期演奏会「再生へvol.3:祈り~エストニアから震災復興を祈るコンサート」により「第3回ウィーン・フィル&サントリー音楽復興記念賞」を受賞した。海外からの招待も多く、2000年オランダの「ガウデアムス音楽週間」、2003年ベネズエラで行なわれた「フェスティバル・アテンポ」、2005年11月パリで行われた「フェスティバル・アテンポ」およびイギリスの「ハダースフィールド現代音楽祭」、2007年にはメキシコの「モレリア音楽祭」、また2008年10月にはソウルでの「パン・ムジーク・フェスティバル」などに出演。2009年秋には、中国の北京首都師範大学、北京中央音楽学院、四川音楽学院で中国人作品を中心としたプログラムの公演を行ない、好評を博した。2011年には2度目の韓国公演を開催。2013年7月にはエストニアとオランダで公演を開催。2014年にはメキシコの「セルバンティーノ音楽祭」に日本を代表するアンサンブルの1つとして招聘された。2015年12月に再び中国四川公演を行い、2020年には「ライブツィヒ現代音楽祭」にonlineで参加。2023年11月には3度目の四川公演を行った。今後もフランスやメキシコなどでの公演を予定している。また、近年ではアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、保育所、病院、小学校、特別支援学校等で訪問コンサートやワークショップを行なっている。

CDは、これまで近藤 譲「梶子」、「空の眺め」、「オリエント・オリエンテーション」、「表面・奥行き・色彩」、石田秀実「神聖な杜の湿り気を運ぶもの」、池辺晋一郎「炎の資格」、福士則夫「花降る森」が発売されている他、藤倉 大の「Turtle Totem」、「Diamond Dust」、「Glorious Clouds」にもライブ録音が収録されている。海外では2011年秋にエベルト・バスケスの「Bestiario(動物寓話集)」、2015年秋に「Pruebas de vida(生命の証)」がリリースされている。2014年にはオリジナル・アルバム「めぐる—Meguru」を発売。2015年夏から秋にかけて発売された「現代中国の作曲家たち」シリーズは、レコード芸術誌の特選盤や朝日新聞の「for your collection」推薦盤に選ばれている。公式ウェブサイト:www.ensemble-nomad.com/



#82出演者/佐藤紀雄(cond) 木ノ脇道元(fl) 菊地秀夫(cl) 野口千代光・花田和加子(vn) 甲斐史子(va) 菊地知也(vc) 佐藤洋嗣(cb) 中川賢一(pf) 宮本典子(perc)

Guests



林 憲秀 (ob)



小栗舞花 (perc)



東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティB1F
Tel: 03-5353-0788 京王新線「初台駅」東口下車徒歩3分